

病院・診療所からのワンポイントアドバイス

脳梗塞急性期の治療で最新の治療器材を活用し、再開通率約9割の治療成績



社会医療法人 医翔会
札幌白石記念病院
理事長・院長
野中 雅

脳血管内治療は足の付け根の動脈などからカテーテルを脳や頸部に挿入し、血管内部から治療する方法です。患者さんの負担を大きく軽減でき、脳血管障害の第一選択肢として積極的に実施しており、脳動脈瘤や脳動静脈奇形、脳梗塞、脳塞栓症、一過性脳虚血発作などが対象です。脳梗塞は発症後4.5時間以内であれば血栓を溶かすt-PA治療が有効です。それ以上時間が経過していたり、t-PA無効症例の場合は脳血管内治療を行います。当院は脳動脈瘤に対するコイル塞栓術に加え、最近では5mm以上の動脈瘤に対して

保険適用となり、安全かつ確実な治療法として普及しつつある「フローダイバーター留置術」を実施しています。他にもステントリトリバーという治療器材により、再開通率約9割という治療成績を得ています。これはカテーテルを使って血管内でステントを広げて血栓を絡め取り、ステントごと引き抜くことで血流を再開させる方法です。また、患者さんが搬送されてから夜間でも速やかに治療開始できるよう脳血管内治療に精通した認定IVR看護師を当直制で配置し、治療開始までの時間を大幅に短縮しています。当院は脳神経外科・脳神経内科・循環器内科・心臓血管外科・腎臓内科などを擁し、「頭から足の先までの動脈硬化病変に対応する病院」として、全身の動脈硬化性疾患の治療が行える点も特徴です。